



原因不明のネットワークトラブルにお困りですか？

迅速な復旧には、“通信フローの可視化”がもっとも有効です。



新モニタリング手法LWPI® (Lightweight Packet Inspection®) で リアルタイム且つレイヤー横断的な“統合的サービス監視”を提供！

@FlowInspectorは、NTT-AT独自のLWPI手法により、仮想ネットワーク・IoT・リモートワーク環境など、あらゆるネットワークサービスの通信フローをリアルタイムに識別・可視化することで、従来のSNMP/xFlow監視装置では不可能だった「サイレント障害の検知」を可能にした、革新的なネットワーク監視装置です。

POINT

1

充実のラインアップ
(1G/10G/100G対応)

POINT

2

独自のモニタリング手法LWPI
(Lightweight Packet Inspection)

POINT

3

監視ルール自動更新による
簡単らくらく監視

※「LWPI」、「Lightweight Packet Inspection」は、NTTアドバンステクノロジ株式会社の特許・登録商標です。

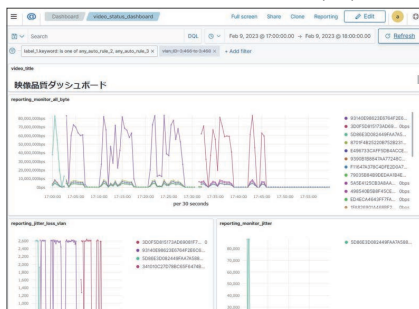
● LWPIにより、高速・広帯域のトラフィックをリアルタイムに監視・記録

@FlowInspectorは、トラブル発生時に迅速なサービス復旧が必要なインフラを提供・運用している事業者様にお薦めです。MPLS/SRv6/VXLAN/EtherCATなど、あらゆるパケットフォーマット・プロトコル(ネットワークサービス)に対応しています。

トラフィック監視画面(例)



サービス品質監視画面(例)



レポート画面(例)



LWPI® (Lightweight Packet Inspection®)
リアルタイム識別・可視化



- ・リアルタイムパケット処理
- ・フルワイヤーレート監視
- ・ネットワーク異常検知/通知
- ・豊富なラインアップ(1G版/10G版/100G版)

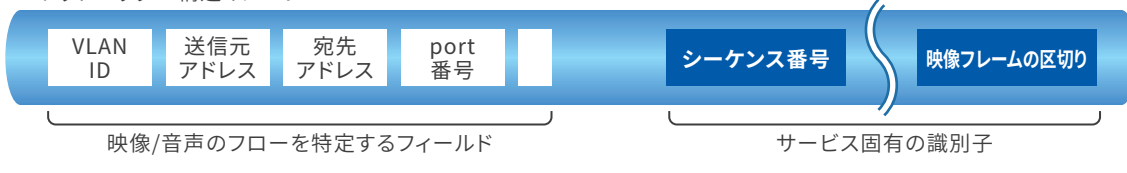
主な機能

- ・LWPIによる、あらゆるネットワークサービスに対応した「リアルタイム識別・可視化機能」
- ・監視対象フローの数千~数万に及ぶルールの手動設定を回避する「監視ルール自動更新機能」
- ・インシデント発生時に自動で記録する「ドライブレコーダー型パケットキャプチャ機能」
- ・トラフィック量の変化を監視して閾値超えを通知する「異常トラフィック検知機能」
- ・100μs間隔でパケット検知と閾値を調整可能な「マイクロバーストトラフィック検知機能」
- ・音声/映像の品質測定に活用できる「ジッター/レイテンシー測定機能」

LWPIとは

あらゆるパケット情報を任意に指定・組み合わせて集計可能

パケットヘッダー構造イメージ



お問い合わせ

<https://www.ntt-at.co.jp/product/flowinspector/>



※記載された社名、各製品名等は、各社の商標または登録商標です。※本カタログ記載の内容は予告なく変更することがあります。※カタログ記載内容 2023年6月現在